

## 『防災教育を中心とした学校安全フォーラム』を開催しました(2017/11/24)

テーマ：防災教育、学校安全、国際交流、防災教育国際協働センター  
 場所：岩沼市民会館

2017年11月24日、宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所 防災教育国際協働センターの主催、岩沼市教育委員会の共催により、岩沼市民会館にて「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」が開催されました。フォーラムには、防災教育・学校安全に関わる教育関係者、研究者、実践者等、日本全国から約700名が参加しました。本フォーラムは、2015年度に開催されたプレフォーラムを含めると、2016年度に引き続き今回が3回目の開催となり、学校安全の分野における期待が高まりつつあります。

本フォーラムでは、宮城県教育委員会の高橋仁教育長、岩沼市教育委員会の百井崇教育長からの挨拶に続き、防災教育国際協働センターの佐藤健センター長（情報管理・社会連携部門）より開催の趣旨説明が行われました。

特別講演では、関西大学の河田恵昭特命教授から「自然災害に対する地域と連携した防災教育・防災体制の構築」と題する講演が行われ、防災教育の実践的研究の重要性についての示唆を得ることができました。続いて、フィリピン国タクロバン市のセルマ・クィタリグ教育局長から、「2013年スーパー台風ハイエン後の教育復興に関するタクロバン市における教訓」と題する講演が行われ、学校の被害とその教訓、復興の状況が共有されました。東洋英和女学院大学の桜井愛子准教授に通訳の協力をいただきました。

また、パネルディスカッション第1部「震災の教訓を生かして」および、第2部「これからの災害に備えて」では、青森、岩手、宮城、福島、高知、熊本の学校から防災教育の実践発表に基づいた総合討論が行われました。第1部のファシリテータは、宮城教育大学の小田隆史准教授が、第2部のファシリテータは、当研究所の佐藤健教授がそれぞれ担い、東日本大震災や熊本地震の被災地においていまだ抱えている課題や教訓を共有するとともに、未災地における学校防災に活かすことが議論されました。

最後に、文部科学省の吉門直子安全教育調査官により、宮城で定期開催されている本フォーラムの意義とその成果について、講評が行われました。なお、本フォーラムの総合司会は定池祐季助教（情報管理・社会連携部門）が担当しました。



河田特命教授による特別講演



セルマ教育局長による特別講演



フォーラム会場



パネルディスカッション



吉門直子安全教育調査官の講評